

コード No. 10367

**Anti-Human
Reticulocalbin-1 (TMU-6A1) Mouse IgG MoAb**

容量 : 50 µg

- はじめに : ヒト Reticulocalbin-1 は分子量 44 kDa で、EF ハンド型 Ca^{2+} 結合タンパク質に属し、C 末に ER retention signal 配列である-HDEL 配列を有する小胞体(ER)のルミナルタンパク質として知られています。1 個の elongation factor (EF) - hand motifs を有するドメインが 6 個反復していることが知られていますが、その機能については明確には示されていません。腫瘍細胞での解析では肝細胞がんで正常肝細胞に比べ高発現の報告があり、カルシウム調節を介したヒト細胞の悪性化に関与している可能性が示唆されていますが、腫瘍学におけるヒト Reticulocalbin-1 発現に関する報告は少数しかありません。その中に、浸潤性の高い乳がん培養細胞において Reticulocalbin-1 が高発現し、浸潤性の低い培養細胞では発現しなかったとする報告がありますが、その意義については不明な点が多くあります。
- 抗がん剤の中で最もよく使われているものの一つにシスプラチンがあります。シスプラチン(*cis*-diamminedichloroplatinum (II); *cis*-DDP, cisplatin)は、現在がん化学療法の主要薬剤であり、精巣腫瘍、卵巣がん、頭頸部がん、食道がん、小細胞肺がんなどいくつかの固形がんが優れた効果が認められています。平野らは、抗がん剤感受性マーカーを探索する研究において、シスプラチンに対する薬剤耐性培養細胞株とその親株のたんぱく質発現を、2 次元電気泳動ゲル上で比較した結果、薬剤耐性株において顕著に発現が低下しているスポットを発見し、アミノ酸配列を解析した結果、Reticulocalbin-1 であったと報告しています(文献 1)。
- 免疫抗原 : Human Reticulocalbin-1 の C 末領域(90 アミノ酸)のリコンビナントタンパク質
- 起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)
(X63 - Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)
- クローン名 : TMU-6A1 サブクラス : IgG₁
- 精製方法 : Protein A 精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 50 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2~8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び : 免疫組織染色 0.05~5 µg/mL にて使用可能 (10%中性ホルマリンまたは 10%中性緩衝ホルマリン固定、マイクロウェーブ処理が必要)
- 使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能
: 免疫沈降法 3 µg/test にて使用可能
- 文献 : 1. Hirano T, Kato H, Maeda M, Gong Y, Shou Y, Nakamura M, Maeda J, Yashima K, Kato Y, Akimoto S, Ohira T, Tsuboi M, Ikeda N. Identification of postoperative adjuvant chemotherapy responders in non-small cell lung cancer by novel biomarker. *Int J Cancer*. 2005 Nov 10;117(3):460-8.
2. Fukuda T, Oyamada H, Isshiki T, Maeda M, Kusakabe T, Hozumi A, Yamaguchi T, Igarashi T, Hasegawa H, Seidoh T, Suzuki T. Distribution and variable expression of secretory pathway protein reticulocalbin in normal human organs and non-neoplastic pathological conditions. *J Histochem Cytochem*. 2007 Apr;55(4):335-45.